



SALVATIONIST

とぎのこえ

2024年標語「世代から世代へ」(詩編145編4、5節)



二〇二四年十一月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

初冬号

広報版
2024

November-December
No.2879

2024年 救世軍標語

「世代から世代へ」

「人々が、代々に御業をほめたたえ
 力強い御業を告げ知らせますように。
 あなたの輝き、栄光と威光
 驚くべき御業の数々をわたしは歌います。」

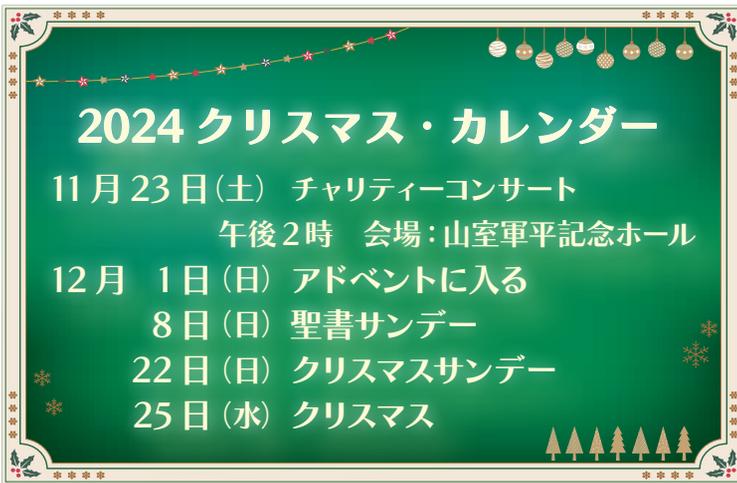
詩編 145 編 4、5 節

と きの こ え SALVATIONIST

初冬号 広報版
 2024 November – December
 NO.2879

もくじ

- メッセージ
 新しい時代の信仰の姿
 少佐 山谷 真少佐 ……3
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第35回
 ジョン・ウェスレーの聖潔
 一心うちに燃えて—
 少佐 丸畑 幸夫 ……4
- 集会報告
 軍国ミュージック・キャンプ ……5
- 各地のニュース !!
 西日本連隊 ……6
- 証言
 名古屋小隊 奥山貴子兵士 ……6
- 各地のニュース !!
 京都小隊、上野小隊 ……7
- 各地のニュース !!
 社会福祉部 全国社会福祉施設長及び
 士官会議、
 名古屋小隊、帯広小隊 ……8
- YP (青少年部)・ファミリーニュース
 軍国ユースキャンプ2024 ……9
 北海道連隊、大森小隊 ……10
 関東東北連隊 ……11
- 〈連載〉各地の小隊から
 第10回 静清小隊 ……11
- 〈連載・第29回〉
 神の呼びかけ～神の民となるために～
 (11) 聖潔への呼びかけ
 (12) 戦いへの呼びかけ ……12
- 救世軍見解表明
 社会道德に対する救世軍の立場
 第14回「障がいのある人々」(2) ……13
- 世界的戦略の枠組み「コンパス」 ……14
- 大将から全世界の救世軍人への手紙 ……15
- 召天記事、救世軍公報 ……15
- 求人情報ほか ……16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- 『とぎのこえ』購読を申し込みます。
 (1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：北海道連隊ファミリー
 キャンプ2024 ゲームナイト
 で、盛り上がりました(記事10ペ
 ージ)

メッセージ

新しい時代の信仰の姿

少佐 山谷 真

二〇二三年五月、新型コロナウイルスは二類から五類に移行し、それから一年半が経過しました。社会は徐々に感染症への緊張感が解かれ、私たちの生活はかつての姿を取り戻しつつ

つあります。しかし、パンデミックを通して私たちの生活や信仰、そして人とのつながり方が大きく変化したことは否定できません。この時期に経験した試練は、私たちに新たな視点

を与え、信仰と共同体の在り方について再考する機会をもたらしたのではないでしょう。

「二人または三人がわた

しの名によって集まるところには、わたしもその中になるのである。」(マタイ18・20)

この言葉は、パンデミック中に物理的に集まることが制限されていた私たちに、深い意味をもつものとなりました。歴史を振り返れば、人類は幾度となく疫病に襲われてきました。そして、その度に社会の形態や人々の信仰生活は変容を遂げてきました。疫病に直面しながらも、祈りと共助によって新しい信仰共同体が生まれ、それが社会の支えとなってきたのです。

アムステルダムへのベギンホフ



中世後期のヨーロッパで、ストが猛威を振るった時代、多くの男性が犠牲となり、社会には多くの未亡人が残されました。彼女たちは、夫や家族を失っただけでなく、社会的な支援の枠組みから

外れ、生活の基盤を失う危機に直面しました。しかし、こうした中で未亡人たちは自らの力で生き抜く道を見いだしました。彼女たちは自発的に集まり、「ベギンホフ」と呼ばれる共同体を形成し、祈りと奉仕を基軸にした新しい共同生活を営むことで、社会的孤立を防ぎました。

ベギンホフは修道院とは異なり、再婚する自由が認められていたため、共同生活に入っても途中で再び家庭をもつことができる点が特徴的でした。修道院は人里離れた場所に建てられることが多いですが、ベギンホフは都市の中心部にあり、複数の家を繋ぎ合わせたりしてつくられていました。こうして、祈りと奉仕を日常生活の一部として社会と密接に結びつけ、信仰生活を維持したのです。彼女たちは祈りを共にし、互いを支え合う中で信仰に基づく新たな主体性を獲得し、生き生きとした生活を取り戻しました。

彼女たちの生き方は、男性にも影響を与えました。彼女たちの共同生活に感銘を受けた男性たちは、ライオン川下流域の各地に「共同

生活の兄弟団」や「神の友」といった共同体を形成し、同様の共助の精神を共有しました。この流れの中から、エックハルト、タウラー、ゾイゼ、トマス・ア・ケンピスといった霊的指導者が現れ、「新しい信仰」(デポティーオ・モデルナ)と呼ばれる精神運動が生まれました。『テオロギア・ゲルマニカ』(ドイツ神学)を著した匿名の騎士修道会の司祭もその一人で、マルチン・ルターが「信仰義認」を再発見する上で大きな影響を与えたとされています。こうして、この流れは宗教改革へと繋がっていったのです。

これらの共同体に共通していたのは、どれほど厳しい状況であっても、少数の人々が一冊の聖書を囲んで集まり、祈りを献げ、神と直接つながり、互いを支え合う、という信仰の形でした。こうした生き方は、時代を超えて私たちに多くの示唆を与え続けています。

コロナ禍を過ぎ越した私たちは、いま「ポスト・パンデミック時代」を迎えています。この新しい時代においても、かつてのベギンホフ

のような祈りを中心とした共同体の重要性は増しているのではないのでしょうか。パンデミック中、私たちは物理的な距離が必要とされる中で、オンラインを活用した新しいつながり方を模索しました。ビデオ通話やメッセージアプリなどを通じて祈りを共有し、礼拝に参加することで、信仰を維持してきたのです。しかし、やはり互いの顔を見ながら、同じ場所で祈りを献げ合うことのもつ力は特別です。直接の触れ合いを通じた繋がりが、信仰共同体を強め、より深い絆を生み出すことも私たちは改めて学びました。

「二人または三人が集まるところに主が共におられる」という聖書の教えは、今も私たちの心に深く響きます。感染症がもたらした困難な時代を経た今こそ、私たちはそれぞれの場所で、少数数であっても神の臨在を感じながら祈り、互いを支え合う新しい信仰の形を築き上げていくべきではないのでしょうか。それは、ただ元の生活に戻るだけでなく、新しい時代に即した形で、私たちの信仰と共同体をさらに深めていく道筋となるに違いありません。

連載 聖潔の流れに立つ 第三十五回

ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うち燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

(承前) ウエスレーは病人を訪問し、貧しい者には貸付基金や施設の設立を試みた。運動を促進させたのは知識階級の人たちであった。薬局も設け無料で医薬を提供したために、開業医の非難を受けた。また、しばしば暴徒の迫害を受けたこともあった。ウエスレーが人のために与えることを望んだのは、神がその人に与えることを望んだからであって、自分が神から褒賞を受けるためではなかった。

労働組合の指導者たちが、一八一五年頃活躍し始めたが、メソジスト信者出身が多く、彼らはメソジストの創立にも尽くした人たちであった。

しかし、ウエスレーは福音的ではあったが、分派を好まず、一派を打ち立てることなく、英国国教会からは分離しなかった。ウエスレー一家が非国教徒から国教会(聖公会)に転向したことは、国教会に対する忠誠の絆を大切にしていたことがわかる。彼の目的は、国教会の信仰復興にあったので、分派を考えることはなかった。国教会に信仰的生気を吹き込むことを自らの使命と感じていた。父母に対するように国教会を敬愛していた。

ウエスレーの事業はことごとく聖霊運動であって、後のメソジスト教会よりウイリアム・ブースが生まれたこと、またホーリネス派が出たことは周知のとおりである。貧しい人々を顧みる思いを大切にされたブース

の中に何か強く暗示させられるものがある。

D. 野蛮な炭鉱労働者たちへの伝道

ブリストルの近郊に炭鉱が発見された。ここに多くの採掘労働者が各地より集まり、キリスト教文化にふさわしくない社会を形成していた。

その人たちの風貌、言語、行状は周囲の社会とは別種のような観があった。心は荒れずさび、歌舞団、売春などを好む特殊な社会となり、酒に酔いしれた。彼らの中に近くの教会に出席する者があったとしても、教会側は冷淡で、教職者も彼らに対しては侮辱と嘲笑を加え、礼拝に参加することを忌み嫌い、正常な羊の群れとして扱わなかった。神を信頼する者を神は見捨てることはない、とウエスレーは常に言っていた。

ウエスレーは国教会の厳粛と秩序ある聖日礼拝を厳守してきたので、どのようにしてこの貧しい労働者の靈魂を救うことができるだろうかと困惑した。彼は野説教のやりかたをホイットフィールドから教えられていたので、それを採り入れ、ここから回心者を獲得する方法を学び、民衆の大歓迎を受けた。この野説教によって、ウエスレーは国教会が捕まえることができなかった多くの人々を自らの宗教運動に動員できたのである。他から寄付された金銭を彼らに分け与え、自ら持てる物をも彼らに与えた。「できる限り与えよ」とはウエスレーの「金銭使用法」に対するモットーであった。

これらの救助金は、その仕事を長く継続しているうちに、妻マリーの不興を買ってしまった。

マリーは家庭の安逸を望んでいたものの、その結婚当初はウエスレーを愛し、伝道生活に協力していたが、後にソクラテスの妻と同程度の悪妻と言われるようになった。それというのも、ウエスレーは彼女の理解を超えた存在となっていたからである。

ウエスレーが、炭鉱労働者たちに金銭をばらまき、家庭を顧みない結婚生活は、彼女を病的な嫉妬に迫

いやった。彼女は、ウエスレーが女性メソジスト教徒たちや労働者たちに優しすぎると判断し、ウエスレーの不道徳性を幻想した。ウエスレーは自分が持っている何かを失うことによって、永遠に所有するものが増えることを知っていた。彼の妻は、その双方とも失ったのである。ウエスレーの言葉に「私は金銭に貧しくとも、恩寵において豊かなことをうれしく思う」とある。

ほとんど信じられないことであるが、ウエスレーの友人がウエスレー夫妻の部屋に偶然入った時、ウエスレー夫人が怒り狂っており、その手にはウエスレーの頭髮が抜かれて握られていて、ウエスレーは床に倒れていたというのである。

こういう場合でも、ウエスレーは妻に対しては、優しさと礼儀を欠いてはいなかったようである。ウエスレーの結婚生活は、妻が最終的に家を出てしまったことで終わった。ウエスレーは妻についての悪口などはどこにも書いていない。彼はどんなに苦しかったであろうかと想像される。

一方、ウイリアム・ブースは、妻カサリンについてこう言っている。「彼女を私の伴侶として、友として、またカウンセラーとして信頼し、また母親として子どもたちに最善を尽くしてくれたことについて、言葉では言い表すことができない」と。

ジョン・ウエスレーの場合は、その憂鬱さが、計り知れなかった。これを是認せざるを得ないということは、気が晴れない思いである。その後、ウエスレーは神を愛する心が強められるにつれて、異性に対する関心は薄められていった。

E. ホイットフィールドと共に燃える

ホイットフィールドは学生時代、オックスフォードの「神聖クラブ」の会員であり、そこでウエスレー兄弟と共に力を合わせて活動した。共に英国の信仰復興運動になくてはならぬ素材として神が用意された青年であった。

(続く)

集会報告

軍国ミュージック・キャンプ 8月12日(月・祝)～14日(水)

会場：杉並小隊・総合センター及び別館(アネックス)、士官学校

「心からの賛美を主に！」をテーマに掲げ、全国から幅広い世代が一堂に集いました。

1日目は10時から開会集会がもたれ、ワーシップバンド講師の中山有太師(ギター)、原田恵氏(キーボード)、倉持守師(カホン)の賛美リードによって「どんな時でも」「聖なるかな」を賛美し、中山師は詩編22編から、賛美を住まいとされる神に献げる賛美についてメッセージを語られ、これから始まるキャンプの目的を確認する時となりました。その後グループに分かれ、講師は参加者のレベルを見ながら、それぞれ必要な課題に取り組みました。昨年できなかった全員での合唱の時間は、繁田忍唱歌隊長(名古屋)の導きで、念入りのストレッチの後、今年のテーマソングにハーモニーを付けて練習しました。食事の会場となったアネックスは、夏祭り風に飾りつけされ、屋台をイメージした夕食メニューで一同がリラックスした雰囲気を楽しみました。

2日目はディボーションで始まり、「聴くドラマ聖書」を用いて分かち合いと賛美によって心を整えました。午前、午後と各クラスで集中力を切らすことなく熱心なレッスンがおこなわれ、中山師による「賛美について」の学び、併行して子どもたちのレクリエーションの時間もあり、それぞれに有意義な一日を過ごしました。昼、夜と丹誠込めて用意された食事で、酷暑を乗り切る活力をいただきました。



3日目は最後の練習を終え、午後2時からの閉会集会は、石川和男少佐の司会で「わがためのちを主はたまえり」(救世軍歌集69番)を賛美した後、各クラスの発表があり、各講師がレッスンの様子を報告しました。タンバリンクラスは「Sing Hosanna!」を軽やかに操練し、体を一杯に使って主を讃えました。ワーシップバンドクラスは、ギター4本、ベース1本、カホン2つ、キーボード4台が高壇に並び、グランドピアノも入って「永遠にあなたと」「どんなときも」の2曲に挑戦しました。今回初めて楽器に触る参加者もいましたが、それぞれのレベルで精一杯演奏し、心を合わせて賛美をする喜びを共に経験する時となりました。ブラスバンドクラスは「March- Stand up for Jesus」を表現豊かに息のぴったり合った演奏で主を高らかに賛美しました。続いてキャンパー全員が「永遠にあなたと」を5声のハーモニーで合唱し、いつものテーマソングとは違う響きを味わいました。

その後、ブラスバンド講師らによる「In this place」の演奏の間、感謝の献金の時をもち、中山師は、歴代誌下20:14～23の御言葉から「賛美の力」は日々の生活の中でどのように生かされるのかを語られました。最後にワーシップバンドとブラスバンドの講師による「永遠にあなたと」が繊細かつ壮大に演奏され、集会の中で1つの曲がそれぞれ形態の違う3つのコラボレーションで表現されたことは、音楽の奥深さと面白さを味わう時でもありました。(出席者67人)参加者はたくさんの学びとお恵みをたずさえて帰路につきました。

(参加者：ブラスバンド14人、タンバリン10人、ワーシップバンド15人、付添家族7人、講師14人、スタッフ6人、ボランティアスタッフ4人、ゲスト・見学7人、総勢77人)(音楽部報)

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

西日本連隊

●音楽キャンプ

8月6日(火)～8日(木)、救世軍豊浜学寮にておこないました。豊浜学寮の子どもたち、職員、卒寮生、連隊内のメンバーが参加し、練習に励み、

最終日には、特別養護老人ホームで演奏会をおこないました。自信をもって音を出したり、タンバリンを操ったりすることができ、子どもたちも自信に満ちた表情に変わりました。ブラスバンドは神戸小隊士官立石真崇少佐、タンバリン操練は連隊女性部書記本村いずみ少佐が導きました。

ブラスバンドは、久しぶりにメンバーがそろっての演奏に、合奏の楽しさを味わうことができました。初めて楽器に触れた子どもも音を出すことができ、経験者も初見の曲にもチャレンジし、互いに励まし合いながら練習に励みました。

タンバリン操練は、楽器の持ち方から教わりました。体調が不良のため途中から参加する子どももありましたが、あつという間に覚えて、最後は、子どもたちだけで発表



することができました。

1日目 開会集会は、立石友理恵少佐(神戸)の奏楽により元気よく賛美をし、連隊長本村大輔大尉が挨拶と司会、福山小隊士官

友安渚中尉が詩編150編1～6節よりメッセージをしました。夕食までの間、練習に励みました。夜は、本村いずみ少佐がプレイズ・ナイトを導き、ゲームで盛り上がりました。本村大輔大尉が、イザヤ書43章4節より



メッセージをしました。

2日目 午前中は練習、午後の自由時間は、海水浴に出掛けました。残った人たちの中には、練習をしている人のところに2人3人と加わって、音楽を楽しむ姿がありました。二川英二施設長がサザエを焼いてくださり、手作りところてん、かき氷を味わいました。自由時間の後は再び練習をし、夜は、花火を楽しみました。

3日目 最終練習をして、特別養護老人ホーム「豊寿園」でのコンサートをおこないました。入所者やスタッフ方の笑顔に励まされながら、全力で取り組みました。初めて参加した子どもたちが感想を話し、本村大輔大尉がお祈りをした後、グループごとに記念撮影をして閉会

しました。キャンプを通じて、神様に愛されていることや賛美の喜びを分かち合い、お互いに交流を深め合うことができました。(参加者34人(うち子ども17人、職員5人))



証言

名古屋小隊 奥山貴子

猛暑の続く七月二十八日に、夫と共に兵士入隊式をおこなっていただきました。長い間、客員として名古屋小隊につながっていましたが、コロナ禍をきっかけに、神様のお導きで救世軍の一員となる決心をしました。入隊に至るまでには準備の時として『選ばれて兵士となる』の書籍を小隊士官加藤直子少佐の導きのもとに学んでいきました。喜びを通してもう一度新たに歩みだす喜びと決意をもつことができました。

私たち家族が名古屋小隊に通うようになったのは、私がフルタイムで仕事をしようになつて忙しくなり、教会に行けない時に、我が家から歩いて五分とかならない名古屋小隊に行つたことがきっかけだったと思います。当時次男が小学生で日曜日も塾があり、塾から帰ると小隊でお昼をいただいで家族と向き合う時間ももつことができませんでした。その時の小隊長小林勝利少佐、早苗少佐ご夫妻には大変お世話になりました。次男にとっては癒される豊かな時をもたせていただき、その思い出は人生の礎となつていることと思います。感謝の思いで一杯です。

入隊式では連隊長中島美和大尉の司式に導かれて、連隊女性部書記鈴木真理子大尉にお祈りをさせていただきました。入念なお祈りと準備を感じさせるお二人の姿勢に、私自身も

身の引き締まる思いでした。

最初に誓約をしました。連隊長が誓約の言葉を読み上げてくださり、一つひとつの言葉を確認しながら誓約をしました。誓約の言葉も誓約後のお祈りも力強く、これからの歩みに温かい励ましをいただきました。連隊長の説教はマタイ九章九～十三節を深く掘り下げて、わかりやすく熱心に語ってくださいました。メッセージの内容は私の心にしみわたっていききました。その中でも一三節の「わたしが求めるのは憐れみであつて、いけにえではない」という聖句が心に残りました。目に見えないところでだけで判断するのではなく、状況や気持ちを考えて相手に寄り添っていきたいと思いました。

入隊式を通して連隊リーダーの二人や加藤少佐のお働きにすばらしさを感じるとともに、私たちのために一生懸命に準備してくださったことを大変嬉しく感謝に感じました。そしてそれぞれの方々を通して神様が働かれていることも思わされました。皆様のお祈りやお支えもありがとうございます。

現在は礼拝に集って力をいただいたり、楽しく交わりの時をもたせていただいたりしています。嬉しかったことは、教会から遠ざかっていた家族が時々救世軍に顔を出してくれるようになったことです。私自身は弱く小さな者ですが、これからも小隊の皆様の励ましやお祈りに支えられながら歩いていきたいと思っています。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

京都小隊

●アロハ・サンデー

8月11日(日)、ハワイより10度ほど暑い京都で、愛と感謝を伝える日として、「アロハ・サンデー」をおこないました。

“アロハ!(ALOHA)”は、ハワイの「こんにちは・さようなら」などの挨拶の言葉として知られていますが、優しさ、協調性、思いやり、謙虚さ、忍耐という意味があるそうです。

愛と感謝を伝えるのは照れくさいものですが、今回は、アロハシャツを着て、互いに“アロハ”を表現してみました。この日の聖別会の対面での出席者は、全員男性でしたが、めいめい好みのアロハシャツを着用し、礼拝に臨みました。いつもより、リラックスした雰囲気、自然に笑顔があふれ、喜びあふれる集会となりました。

西日本連隊長 本村大輔大尉によるメッセージは、マル



コによる福音書6章30～34節から「主は私たちを休ませ、教えられる」という題で、夏にふさわしいリトリート(修養会)的な聖別会となりました。

皆さん、アロハシャツを着て、リラックス

上野小隊

●クリスチャンロックバンド サルーキ=による伝道イベント

9月7日(土)、8日(日)、上野小隊で伝道イベントを開催しました。今回はゲストにクリスチャンロックバンドのサルーキ=をお招きしました。

7日(土)11時～19時、café blessing(年4回開催しているカフェ。事務局担当:堀切兵士夫妻)をおこないました。特に今回は寿司職人を招き、来られた方の目の前で寿司を握っていただき、大盛況でした。

14時から、「サルーキ=コンサート@café blessing」と題して、2階礼拝堂で1時間30分のコンサートがおこな



なわれました。サルーキ=のメンバーの証言や歌を通して、ノンクリスチャンにも届く言葉でライブがおこなわれました。コンサート後も、サルーキ=メンバーが、来られた一人ひとりに積極的に

声をかけて、救いの証言をしてくださいました。

8日(日)は10時30分から聖別会。司会を石川里志曹長、賛美リードをサルーキ=メンバー、証言をサルーキ=、説教を朝澤まりこ大尉がおこないました。

14時30分からは、「サルーキ=救いのロックンロールコンサート」を開催。1時間30分の中で、福音のメッセージをメンバーの歌や証言を通して会衆に届けました。コンサート終了後も、交わりが続き、サルーキ=メンバーを中心に、まるで天国の前味のような雰囲気でした。とても祝福された時を過



ごしました。

2日間を通して、参加者の半分がノンクリスチャンの方で、また地域教会からも大勢参加してくださいました。共にイエス様の赦し、救いを分かち合う時をもつことができたことを心より感謝します。(聴衆:7日café blessing 23人、サルーキ=コンサート@café blessing 41人、8日サルーキ=救いのロックンロールコンサート 39人)



社会福祉部

●全国社会福祉施設長及び士官会議

9月3日(火)～5日(木)、神奈川県三浦海岸の「マホロバ・マインズ三浦」にて開催しました。今年のテーマは「平和のうちに蒔く～石地に花が咲くとき～(ヤコブ3:12～18)」のもと、3日間を通して、本営と各施設が、現在あるところを確認し、将来に向けて、具体的にどのように社会福祉の働きのため、種を蒔いていくかを確認する時となりました。

開会集会は、書記長官西村保大佐補が、「かたくなな心を悲しみ」(マルコ3:1～6)と題してメッセージを語りました。その後、吉田眞中将による理念の講演があり、分かち合い、実践発表の時をもちました。チャプレンは別グループとして、病院・施設におけるチャプレンの在

り方について深める時をもちました。祈祷会は札幌三園チャプレン石坂臣司少佐が導きました。

二日目は、バイブルリーディングを清瀬小隊士官補佐齋藤丈夫大尉が担当。その後、理念に関する分かち合いを地域・業種を超えたグループでおこないました。午後は、社会福祉部長石川一由紀少佐が、今年のテーマに関する基調講演をおこない、人材採用、育成、施設の将来と法人との協力関係等について検討するグループワークをおこないました。

三日目は、グループワークの総括の後、司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐がコメントをし、参加者を奨励しました。閉会集会では、司令官が「塩と光」(マタイ5:13～16)と題してメッセージを語りました。(参加者35人、講師・スタッフ含)



NEWS!! NEWS!! 各地のニュース!!

各地の墓前礼拝において、4月24日に召天された永縄芳兵士(旧岐阜小隊家庭団会計)の納骨式をおこないました。



名古屋小隊

●召天者合同記念会

9月29日(日)に秋の召天者合同記念会をおこないました。

午後は、救世軍八事墓

帯広小隊

●召天者合同記念会

9月29日(日)におこないました。コロナ禍の間は、毎年小隊墓地でおこなってききましたが、5年ぶりに小隊会館を会場に開催されました。

出陣者の遠軽小隊士官眞鍋精一少佐は、イザヤ書55章6～11節から、「乾いた畑から潤いの畑へ」と題して御言葉を取り次ぎました。会食の時には、それぞれが家族の近況などを報告し、和やかな交わりの時でした。(会衆33人)午後は小隊墓地に移動し、墓前礼拝をおこない、眞鍋正兵士、喜多裕之さんの納骨式がおこなわれました。(会衆38人)



YP (青少年部)・ファミリーニュース

軍国ユースキャンプ2024

8月15日(木)～17日(土)まで、「神の家族！」のテーマのもと、静岡県御殿場にある「YMCA 東山荘」を会場に開催されました。全国から29人が集まりました。体調不良で参加できなかった人もあり、神様の癒しを祈りました。期間中、台風の接近や大地震への警戒等、気がかりな状況はありましたが、参加者らは皆でゲームやディボーションをし、共に祈る時をもち、関係を深めました。

1日目、オープニング集会では、賛美とゲームで盛り上がり、朝澤まりこ大尉(青少年部)がメッセージをしました。今回の賛美チームには、4人の青年たちも加わり、熱い賛美が献げられました。

夜のウェルカムナイトでは、グループ対抗のゲームで盛り上がり、お互いの絆をさらに深め、北海道連隊青少年部書記樋口潔中尉がメッセージをしました。

2日目、朝は「聴くドラマ聖書」から御言葉を聞き、そこからいくつかのグループに分かれて、分かち合い、祈り合う時をもちました。雨のため、富士山周辺へ外出する予定を変更し、体育館で3つのチームに分かれて、スキット(寸劇)に取り組みました。それぞれの聖書箇所を読み解き、身近にある物を小道具に用いながら、工夫を凝らしたスキットが披露されました。

午後の自由時間も思い思いにスポーツや散歩などで交わりを深めました。そのうち雨もあがり、楽しみにしていたウォーターバトルをすることができました。チーム対抗での水の掛け合いは盛り上がり、親交をより深めることができました。夜はキャンプファイヤーをおこない、火を囲みながら賛美を献げ、倉持守師(青少年部)がメッセージをしました。

3日目、朝は「聴くドラマ聖書」から御言葉を聞き、前日と同じグループに分かれて、分かち合い、祈り合う時をもちました。派遣礼拝は、賛美とゲームでお互いの信頼関係が深まったことを喜び、参加者全員がひと言ずつ感想を話しました。青少年部長朝澤義人大尉がメッセージをし、グループに分かれて祈る時をもちました。

期間中、成演宇軍国特務曹長(桐生小隊)による聖書の学び会もおこなわれ、青年たちが「主の祈り」をもとに御言葉の理解を深める時をもつことができたことも感謝でした。同世代の仲間と親交を深め、共に過ごした時間は、次につながる良い時となりました。



YP (青少年部)・ファミリーニュース

北海道連隊

●ファミリーキャンプ2024

9月22日(日)～9月23日(月・祝)、「たいせつなきみ」(テーマ聖句：イザヤ書43・4)のテーマのもと、「ネイパル足寄」(足寄町)を会場におこなわれました。コロナ禍を経て、5年ぶりの開催となりましたが、子育て世代を中心に、1歳から93歳までの幅広い世代の51人が集まり、5組の親子が救世軍のキャンプに初めて参加しました。

1日目は、夕方から会場に集合し、オープニング・ミーティングでは賛美と祈り、世代ごとのロールコールで参加者の心が開かれていき、キャンプのテーマ聖句をみんなで読み、帯広小隊士官樋口潔中尉がショートメッセージを語りました。夕食後はゲームナイトで大盛り上がり、大人も子どももたくさん身体を動かして、楽しい時を過ごしました。遠軽小隊士官眞鍋和枝少佐が寝る前のお祈りを導きました。

2日目は、子どもチームと大人チームに分かれて、施設全体を使って、「ネイパル足寄かくれんぼ」をおこない



ゲームナイトで大盛り上がり！



牛乳パックでカートンドッグ作りに挑戦

した。大人チームもお父さん、お母さんを中心に、本気で隠れました。接戦でしたが、僅差で子どもチームが勝利しました。その後は、石坂奈緒美少佐のリードで、カートンドッグ作りをしました。子どもたちも自分で牛乳パックに火をつけて、焼きたてのカートンドッグをおいしく食べました。昼食後は、感謝のつどいをおこない、二日間の豊かな恵みに感謝して、参加者みんなが一つとなって心からの賛美を神様に献げ、連隊長石坂臣司少佐が語るメッセージに耳を傾けました。一人ひとりが大切な宝物のように尊い存在であることを確認し、お互いに「あなたは愛されていますよ」と声をかけ合い、神様の愛に満たされる時でした。



大森小隊

●なつやすみ子ども会

7月27日(土)、賛美や絵本、聖書のお話、楽しくゲームをしました。お昼は流しソーメンでお腹いっぱい食べて、流れてくるおもちゃもゲットしました。

午後は、トイレットペーパーの芯を使って、「飛んでけ、ビュンビュン」の工作をしました。ロケットやウサギ、小鳥やかえるを作って、飛ばして遊びました。子ども6人と、お父さん、お母さん、奉仕者が参加しました。

流しソーメンのひとつま→



〈お知らせ〉

オンラインで見てください！



2024年4月号より、『ときのこえ』福音版(1日号)4ページに、『キッズ・ゴスペル』用QRコードが掲載されています。QRコードをスマホのカメラで読み取って、紙面を閲覧することができます。紙面メッセージと連動した聖書アニメも見ることができます。どうぞご活用ください！ ※小隊、施設には印刷用データを青少年部から配布しています。

YP (青少年部)・ファミリーニュース

関東東北連隊

●キッズ・サマー・デイ・キャンプ

2024年8月20日(火)、「とちぎ青少年センター」を会場におこないました。今年のデイ・キャンプはここ数年、新型コロナウイルスの影響で外に行く機会をもつことができなかつた佐野こどもクラブの子どもたちを対象におこなわれました。このために、杉並小隊のユースに協力依頼をし共に参加してもらいました。

大型バス2台で、宇都宮の会場まで移動し、到着後に集会の時をもちました。お祈りから始まり、賛美は、学童集会でも踊っている「ありのままソング」を、体を動かして賛美しました。ゲームを杉並ユースに導いてもらい、緊張がほぐれたところで、杉並小隊の眞鍋勝利兵士がショートメッセージをしました。イザヤ書43章4節から私たちは神様の宝物であり、どんな時でも愛されているのだということが語られました。

午後の時間は、杉並ユースが用意したゲームを大人も一

緒に思いっきり楽しみました。チーム対抗ゲームでは、子どもたちが熱くなる姿がありました。チームで協力して、嬉しい思いをしたり、悔しい思いをしたり、様々な経験をする時でした。一日という限られた時間でしたが、いつもとは違った環境の中で、楽しい時間を過ごすことができ、このキャンプを通して、参加者一人ひとりが神様の存在をより近くに感じる時となりました。すべてのスケジュールが守られたことを感謝します。(参加者:こどもクラブ児童55人、職員8人、連隊内から4人、杉並小隊ユース6人、総勢73人)(連隊報)



連載

各地の小隊から 第10回 静清小隊

小隊士官 熊田光子少佐

静清小隊は、2016年に静岡小隊と清水小隊が統合して誕生しました。清水小隊はそれ以前、1980年代に沼津小隊と統合していますので、静清小隊は、静岡・清水・沼津の3小隊が統合した小隊です。

毎年、他の会場を借りて開催する召天者合同記念会には、この3小隊の戦友・ご遺族が集います。召天者名簿には150人を超える方々のお名前が記されています。

現在、小隊は静岡市清水区の旧清水小隊会館で聖別会を守っています。

旧清水小隊の名前で、清水区のキリスト教会が合同で所有・管理している「清水キリスト者共同墓地」に納骨堂があります。この共同墓地は、他教団の納骨堂、信徒の方々の墓が共にあり、日本の中でも超教派で、キリスト教だけの墓地は珍しいのではないのでしょうか。イースターの午後、この場所で合同礼拝をします。



旧清水小隊納骨堂での墓前礼拝

故・杉山徳市曹長(清水小隊)が設立した、のぞみ保育園(社会福祉法人・愛泉会)、その後法人に加わった、えじり保育園との交流、礼拝があります。

(法人理事長は渋谷小隊の下士官、のぞみ保育園園長は静清小隊の下士官です。)

卒園式・クリスマス礼拝・職員礼拝には小隊士官が出席し、祈祷やお話の役割をもちます。えじり保育園年長・だいち組は月1回、小隊での礼拝があり、会館に園児たちの大きな賛美の音が響きます。また、だいち組は社会鍋の手伝いもしてくれます。クリスマスには、保育園職員の皆さんも、小隊での聖別会に出席してください。

2代目、3代目、4代目の戦友方がおり、信仰が継承されています。今は次の世代の方々が小隊に集うことが、課題となっています。築50年を超える小隊会館の老朽化、巨大地震に

対する対処の観点から、新会館建築は戦友の悲願です。覚えてお祈りいただければ幸いです。



〈連載・第29回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(11) 聖潔への呼びかけ

(承前)「人間の完全さは業績の中にあるのではなく、精神の中にある。実行の中ではなく、目的の中にある。神がわたしたちに求めているクリスチャンの完全とは、罪のない完全ではない。罪のない完全とは、誰も罪を犯すことができないということである。クリスチャンの完全とは、罪を犯さないことが可能である、ということ。ここには大きな違いがあります。罪のない完全さは人を、現実の世界や通常の人間の性質、また決断や責任の世界から引き上げてくれますが、それは神がなさることではありません。罪を犯すも犯さないも両方の可能性が、キリスト者自身の選択にかかっていますが、そこには神が与える備えがあるのです。」

定義として参考になるかどうかわかりませんが、聖潔への招きはあらゆる側面でなされるので、聖潔の生活には個人的なもの、関わりのあるもの、社会的なもの、そして政治的なものまで、すべてのものに対する態度を含みます。聖潔の経験は、単に日曜日の朝だけに感じる霊的な恵みを言うものではありません。そうではなく、それは週7日間、毎日の生活に変化をもたらすものです。わたしたちが心のきよさを神に願うのであれば、手を動かすようにと聖潔は促します。わたしたちがどのように生活し、人々に対して何をするか、そこには明らかな違いが現れるはずで

聖潔は全きことや健全さとも関連していることを見過ごしてはいけません。フィル・ニーダム (Phil Needham) は『Health, Healing and Wholeness (健全、いやし、そして全きこと)』の中で述べています。「もしわたしたち教会が、世の中に対して真のいやしを使命としているなら、わたしたち自身も全き者となるよう努めるべきでしょう。……そのためには、教会を健全に保つことに注意を払わなくてはなりません。」

全きことは聖潔の現れです。キリストの模範や命令への応答として、また、聖霊のご臨在や導きに従い、わたしたちは生活のあらゆる場面で全きことが求められています。わたしたちは肉体も心も、また魂も神に献げた者として生きることが求められています。

あえてはっきり言うなら、聖潔の生活は偶然にできることではありません。この恵み深い賜物は、求めていない者に与えられることはなく、自分の霊的な状態に無関心な者にも与えられません。イエスは弟子たちに、「義に飢え渇く」者が満たされるのであり、ただ待っているだけの者は満たされないと言われました。ですから、委員会はすべての救世軍人に対して、「聖潔の生活は、わたしたちの内に実を結ばせる聖霊の力によってのみ可能なのだから、そのためにあらゆる努力をする決意をす

る」ことを求めます。

救世軍人に対する調査で、救世軍における生活で欠かさないことは何だと思うかと質問すると、聖潔という答えが何度も強調されてきました。霊的なことを「次善 (2番目に良いこと)」に置くことは、キリストに従う者にふさわしくありません。それでは成功しないでしょう。満足できないでしょう。

使徒パウロはローマの信徒への手紙で、仲間のクリスチャンたちに向かって、自分たちの体を「神に喜ばれる聖なる」(12・1) 生きた献げものとするよう勧めています。パウロは、この世のやり方に同調して自分たちの考えに神をゆがめてしまう人々に警告しました。後続の章の中で、パウロはクリスチャンの生活の実際を強調しています。それは容易なものではありません。自然にできることではないかもしれません。しかし、悪の勝利を防ぐ唯一の方法です。どっちつかずの態度や妥協ではできません。「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」(12・21) きよくなりなさい。

質問

1. 神の民をきよくするのは何ですか。
2. 聖潔の生活について、あなた個人はどう考えますか。
3. 小隊にとっての聖潔の生活については、どう考えますか。
4. 小隊の中で聖潔の教えが必要な部分には、どのように伝えればよいですか。

参考になる聖書箇所

テサロニケー 5・23、24、ローマ 12・1～21、エフェソ 1・4、ヘブライ 12・10、ペトロ 1・16

(12) 戦いへの呼びかけ

わたしたちは世界中の救世軍人に呼びかけます。確かな聖書解釈とキリストの勝利の確信、侵すことのできない人間の自由と尊厳、そして、世界のあらゆる側面——肉体、精神、社会、経済、政治——に対する救いの約束に基づいて、霊の戦いに参加してください。

神の権威に逆らう様々な悪の力に対する主キリストの聖なる戦いに、わたしたちも参加するよう主は招いておられます。キリストの贖いの業による完全なる勝利を確信し、聖霊の力によってわたしたちは戦います。悪魔的なものに対する極端な態度を私たちは拒絶します。悪魔の存在を否定するのも間違いですし、悪魔の存在に執着するのも間違いです。聖霊の賜物を通してキリストの体が武具となることを確信します。これによってわたしたちは強められ力を与えられます。わたしたちは聖書の命令に心を留め、すべての神の賜物を認め、その多様性を喜びます。

(続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場

第14回「障がいのある人々」(2)

見解表明の背景と状況

(承前) 一般的に、「損傷」は医学用語として理解され、「障がい」は、障がいのある人々とその

の周囲の広い社会との間にある排除を表します。ですから、障がいは健康に関する問題だけではありません。それは複雑な意味をもち、全人的な人(体と心)とその人が住んでいる社会との間の相互作用を表します。

障がいが起こる原因には様々なものがあります。それは次のようなものを含みますが、それらに限定することはできません。事故、貧困、戦争や暴力による傷害、不衛生、文化的な慣例、先天性欠損症、老化疾患、変性疾患など。障がいのある人々が直面する困難について訴えるには、医学的、社会的、環境に関する、文化に関することなどを含めることが必要です。

障がいに関して話す中で、言葉が重要な役割を果たします。障がいのある人々がどのように自己識別をするか、それは人によって違います。救世軍は、すべての人を包み込みたいと願う想いの深さを伝えるために、「障がいのある人々」という言葉を用いるように努めます。その人の状況よりも、その人自身に焦点を当てたいからです。

私たちが障がいというものを理解する助けとなる、一般によく知られている障がいのモデルが三つあります。他にも多くのモデルがありますが。例えば、医学的モデルは、医学の面から障がいを扱います。治療、リハビリテーション、その人の限界など。社会的モデルは障がいを、社会的な構造や態度によって引き起こされた限界や不利益と考えます。一方、文化的モデルは、その人が置かれた文化的な環境の中での、障がいに関する考え方の相互作用に焦点を当てます。そこでは、障がいの意味が内側から、または、文化的な伝統から探られるのです。ある文化圏では、障がいのある人々を人間以下の存在と考えたり、障がいは悪霊や呪いや罪の故であると考えたりするのです。

障がいをもって生きる人々の生活改善を求めて働く、世界的な団体がいくつもあります。2008年に国連「障がいのある人々の権利についての会議」は157カ国で批准されました。討議された数々のことの中に、障がいのある人々の生まれつきの尊厳を大切にするとあります。2030年に向けて、「誰一人置き去りにしない」ことを求めつつ、世界的に挑戦を挑みつつ、国連の持続可能な開発目標の多くは、障がいをもって生きる人々が直面する困難について、はっきりと語るのです。また、世界教会協議会も、障がいのある人々が教会の中で経験する疎外について警告し、「教会はすべての人のもの、すべて

の人のためのもの」と呼びかけています。

救世軍の立場の土台となるもの

すべての人は神にかたどって造られ、神の性質と性格を映し出します(創世1:27~31)。神の創造は多様性を表しており、多様性は良いものなのです(創世1:31、詩編8)。神は一人ひとりを愛し、その価値を認め、一人ひとりに同等の威厳と価値を与え、互いに愛し、尊重するようにと命じられました。

聖書を見ると、神が社会の中では寄る辺のない、力のない、弱いと見られている人を大切にしておられることがわかります。聖書は、その時代の様子を表して、力のない人が除外されていたことを記しています(ルカ17:11~19)。聖書は苦痛や困難が人間の経験の一部であることを認めています(ヨブ記参照)。私たちが弱い時に、神は私たちを強めてくださる、とパウロは語っています(コリント二12:9)。イエスは障がいのある人々に同情を寄せました(マルコ1:41、マタイ9:20~25)。そして、自分について来る人々に、同じようにするようにと勧められました(ルカ14:12~14)。イエスは、障がいとその人の罪、または、その両親の罪によって引き起こされるという考えを正されました(ヨハネ9:1~3)。そしてイエスは、社会的に周辺に追いやられていた人々に触れ、共に食事をし、社会的な非難に対して挑戦されました(マタイ9:27~30、ルカ19:1~10)。神の創造の意図は、私たちが共同体の中で、のびのびと生き、神とつながりを持ち、人々とつながって生きることなのです。パウロは、教会という共同体は体であると述べました。

「……体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。」(コリント一12:22) 見たところ弱いと思われる人々が、私たちに神の姿を教えるのであり、その人々がいなければ、私たちはそのことに気づかないのです。神をもっとよく知るためには、すべての人が仲間として取り込まれなければなりません。存在するというこの意味はとても深いものです。私たちが神の愛を理解できるためには、すべての聖なる者たちと共にあることが必要なのです(エフェソ3:18)。

救世軍国際的使命声明(ミッションステートメント)には、救世軍は、イエスの名において「差別なく」人間の必要にこたえると宣言しています。『救世軍教理ハンドブック』は、救世軍の第三の教理で、「……神は、共同体を形成する神であり、共同体をつくり出す神です。この考え方が、包括的福音の基本になります。その始まりから、救世軍は、この福音を伝えてきました。すなわち、包括的に、すべての国民に、神の愛に応えるよう招いてきたのです。救世軍人は、社会から疎外されていると感じている人たちを、神の家族に招き入れようと努めています。」「すべての人を受け入れ、包み込み、三位一体の神の愛を実践する」共同体をつくり上げることがすべての救世軍人の目指すところなのです。障がいのある人々がいない教会は、完全な教会ではないということになります。(続く)



「コンパス」を用い、三つの最重点項目によって
神によろこばれる遺産を残すために
私たちは献身します。

人々を かづける

人々は私たちの使命の中心にいます。私たちは、
私たちの人々が私たちの使命を理解し、それを
より効果的に実現するためにどのように参加
できるかを確実に理解してもらいたいと思います。

使命の 効果を上げる

神は私たちにこの使命を与えました。イエス・キリ
ストの福音を宣べ伝え、主イエス・キリストのみ名
において、分けへだてなくすべての人々のニーズ
に応えることです。神の使命を理解することによ
って、私たちは絶えず変化する未来を通して神
が私たちを導いてくださると信頼することができます。

永続的な遺産を 確立する

私たちは、私たちの世話に委ねられたすべての
ものの優れた管理者となることによって、健全
で繁栄する救世軍を将来の世代に引き継ぐよう
努めます。

12の優先事項

人々

- 1 霊的生活 - イエスを知り、イエスに似た者
になり、イエスのわざを行う
- 2 指導者育成 - リーダーに必要なツールを
与え、効果的な指導者を育成する
- 3 士官の健康 - 士官の精神的、身体的、霊的
健康に大きな注意を払う
- 4 士官手当 - すべての現役士官に手当を
全額で支給する

使命

- 5 メンバーシップ - 救世軍の交わりの中に人々
が加わる方法を定義する
- 6 誓約 - 兵士と士官の誓約を21世紀のレンズ
に照らして再検討する
- 7 万国本営と軍国本営 - 万国本営と軍国本営
の関係を分析し評価する
- 8 総合的伝道 - 小隊と社会事業を統合する
戦略的計画を立案する

遺産

- 9 資源の分配 - 各軍国と世界の財政の安定
のために注力する
- 10 社会福祉施設 - 社会福祉施設のサービスの
真価を最大限に発揮する
- 11 世界的協力関係 - 財政的な安定を確保する
ための新しい資金供給モデルの戦略を立てる
- 12 軍国本営の健全な運営 - すべての軍国で使命を
より効果的に遂行するための効率的なシステムを
構築する

大將は9月25日に、「世界的戦略の枠組み『コンパス』」を發表されました。
「コンパス」についての大將の手紙は、次ページをご覧ください。



大将から全世界の救世軍人への手紙

救世軍の士官、兵士、軍友の皆様へ

イエスのすばらしい御名によってご挨拶申し上げます。
救世軍の活動に対する皆様の貴重な貢献に感謝申し上げます。私たちは皆様の貢献を当たり前だと思っておらず、皆様が私たちの心の中にあり、祈りの中にいることをお伝えしたいと思います。

最近、私たちは「コンパス」という世界的戦略の枠組みを立ち上げました。これは救世軍の使命と奉仕に将来の方向性を与える枠組みです。万国本営と各軍国の指導者と協力して、コンパスは世界中の私たちの奉仕に関わるすべてのセンター、小隊、個人が参加できるように設計されています。

私たちは皆、成長する救世軍の一員でありたいと願っています。そして、永続的な救世軍の一員でありたいと願っています。そこで、私たちの運動のあらゆるレベルが使命の戦略的前進に関与できるように、この枠組みを作成しました。

私は「人々、使命、遺産」というフレーズを考案しました。これは私たちの枠組みの本質を捉えています。救世軍内のすべての人々を大切に、彼らが私たちの使命を知り、どのように役割を果たせるかを確実にすること。救世軍が存在する理由と、私たちが世界で何をしているのかを明確にすること。そして私たちの遺産—私たちの貢献が、今日よりも良い状態で世界中の救世軍を維持することを確実にすることです。私たちは異なる場所から始めていますが、私たち全員が人々を大切に、使命を前進させ、神を讃える遺産を残すことを確実にする必要があります。

私たちはあなたがたの助けを必要とし、あなたがたの祈りを必要とし、あなたがたの参加を必要としています。私のビジョンは、救世軍のすべての部分が、神の恵みによって、世界における使命を明確に理解し、イエス・キリストの福音が人生を変え、男性と女性、少年と少女を変革し、天の父の愛で包み込み、神との和解に与らせる力があることを、恥じることなく確信することです。

この枠組みが、イエスの御名によって神を愛し、他者を愛そうとする私たちの奉仕を強化することを祈ります。

神様の豊かな祝福がありますように。

大将 リンドン・バッキンガム



中山安代少佐 天に召さる

中山安代少佐は、2024年9月13日、入院先の救世軍清瀬病院ホスピスより召天されました。85歳でした。

中山安代少佐は、1959年9月、神田小隊から士官学校『大いなる心』の学年へ入学され、1960年6月、少尉に任ぜられ城東小隊付、翌年、天満小隊副官の任命を受けられました。1963年7月、中山瑞雄大尉と結婚。その後は、夫君と共に、浪江小隊、笠岡小隊、八幡小隊、門司小隊、神田小隊、と歴戦されました。その後は福岡小隊と大牟田小隊、また名古屋小隊と浄心小隊を兼任しつつ、それぞれ九州連隊家庭団書記、東海道連隊家庭団書記の任命を受けられました。1991年、本営で軍国家庭団書記補佐と家庭団コータリー係を兼任し、翌年には、夫君と共に新光館の任も兼任で受けられました。1995年、清瀬病院広報及びボランティア担当、チャプレンの働きに就かれ、35年士官永年勤続章を授与されました。1999年3月には、鶴橋小隊と泉尾小隊を兼務、同年9月に現役を引退されましたが、ご奉仕は同任命で継続されました。2000年にはブース記念病院チャプレンを受け、2年間奉仕された後、完全引退されました。

いつも元気で、笑顔をもって周りの人々に良い感化を与え、福音を伝えることに力を尽くされたご生涯でした。

9月17日、お別れ会を清瀬小隊士官補佐吉田司少佐司式でおこないました。御遺族の上に神様の御慰めをお祈りいたします。

召天
中山安代少佐（神田小隊出身）
は、二〇二四年九月十三日、
召天。
司令官
ステイブ・モーリス

任命
救世軍公報
補
コミュニケーション部付
瀬戸口久美子少佐

二〇二四年十月一日付
司令官
ステイブ・モーリス

社会福祉サンデー 11月10日

救世軍の社会福祉の働きのために祈りましょう

- ・保育園（札幌市しせいかん保育園、菊水上町保育園、桑園保育所、佐野保育園、呉保育所）
- ・児童養護施設（世光寮、機恵子寮、希望館、愛光園、豊浜学寮、児童家庭支援センター明日葉及び矢野分室、広島県東部・北部里親支援センター明日葉）
- ・女性自立支援施設（婦人寮、新生寮）
- ・高齢者施設（恵泉ホーム、ケアハウスいずみ、恵みの家、グレイス）
- ・救護、支援施設（自省館、男子社会奉仕センター）
- ・街頭生活者支援、社会鍋資金による活動、災害救援活動等

これらの働きを覚え、また法人本部である本営での業務を覚え、お祈りください。

士官志願者部・士官学校

●「525 キャンペーン～共に主の門に入ろう」

（2024年5月～2025年3月）

士官候補生及び献身者が与えられるように引き続き祈ってください！ 2025年に5人の候補生が与えられるよう、全国の戦友方と祈りを共にする祈禱会を開催します。ぜひ、ご参加ください！

・12月19日（木）午後1時30分開始

場所：杉並小隊・総合センター

Zoomでの参加→ <https://bit.ly/SArmyCPM1217>

・『525 キャンペーンデボーションガイドブック』も引き続きお用いください。

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 リンドン・バッキングラム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ステイブ・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

リンドン・バッキングラム大将及び万国女性部会長 ブロンウィン・バッキングラム中将 2025年11月来日



2025年11月19日(水)～25日(火)、リンドン・バッキングラム大将及び万国女性部会長ブロンウィン・バッキングラム中将が来日されます。プログラムは検討中です。この計画に神様の豊かな導きが与えられるようお祈りください。

2025年 救世軍標語

「信仰の遺産の上に築く」
—あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。—
テモテへの手紙二 1章 14節

11月30日は社会鍋の日

(社会鍋実施の詳細は社会福祉部より)

遺贈について

救世軍では、遺贈に関する相談を受け付けています。遺贈とは、個人が亡くなった際に、その財産の一部または全部を特定の団体に遺すことを指します。これは遺言書を通じておこなわれ、社会貢献の一環として重要な役割を果たします。救世軍は、伝道・医療・福祉・災害被災者支援・人身取引被害者支援の活動を通じて多くの人々を支援しており、遺贈によって託された資金は、その活動をさらに充実させるために役立てられます。



遺贈に関する具体的な相談は、救世軍本営の代表電話(03-3237-0881)または電子メール(web@jpn.salvationarmy.org)で受け付けています。興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。あなたの意志を未来へと繋げるための第一歩を踏み出してみませんか。

救世軍公式 YouTube 「小隊へ行こう！」

救世軍公式 YouTube チャンネルでは、聖書のメッセージや救世軍音楽、コンサートライブ動画などの配信をおこなっています。2023年9月末から、「小隊へ行こう！」という企画を始めました。これまで5つの小隊(上野小隊・月島小隊・渋谷小隊・遠軽小隊・帯広小隊)が取り上げられています。小隊への敷居を低くし、小隊の中でおこなわれていることをお伝えし、地域の方が小隊に気軽に来ていただけるきっかけとなるよう願っています。小隊の活動や戦友紹介、立地や歴史等の紹介という内容となっています。どうぞご視聴、ご活用ください。



求人情報



救世軍では、社会福祉法人や宗教法人の施設を通じて、幅広い事業を1都1道1府2県で展開しています。求人情報は各施設が窓口となり、原則として他地域への異動はありません。詳細な募集条件は、救世軍の公式ホームページ(www.salvationarmy.or.jp)の「求人情報」や各施設の公式サイトで確認できます。問い合わせ先に連絡することで、見学や職場体験の希望も受け付けています。一部施設では半日職場体験も可能です。

救世軍での仕事は、地域社会に貢献しながら多様な経験を積むことができる機会です。興味のある方はぜひご応募ください。

募集職種は以下のとおりです：

- 児童養護施設 (5 施設)：児童指導員、生活支援スタッフ、相談員、公認心理師、臨床心理士など
- 女性自立支援施設 (2 施設)：支援員
- 救護施設 (1 施設)：支援員、相談員
- 特別養護老人ホーム (2 施設)、軽費老人ホーム (1 施設)、介護老人保健施設 (1 施設)、訪問介護ステーション (1 施設)：看護師、准看護師、介護職員、ホームヘルパー、社会福祉士、介護支援専門員
- 保育所・認定こども園 (5 施設)：保育士、幼稚園教諭
- 病院 (2 施設)、介護医療院 (1 施設)：看護師、介護福祉士、介護職員 (看護助手)

発行所 救世軍本営
 〒101-0051 東京都千代田区
 神田神保町二丁目七
 電話 東京(03)三三七〇八八一
 印刷所 株式会社ヒートエス

発行兼 救世軍
 印刷人 代表者ステイブ・モーリス
 編集人 山谷 真

▼発行日 発行日及び定価
 福音版・毎月一日発行 四〇円
 広報版・奇数月十五日発行 一〇〇円
 ▼定価
 福音版・一部 四〇円
 広報版・一部 一〇〇円
 クリスマス特集号(十二月一日号) 一〇〇円
 振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

(取扱支部)